

おはようございます。今日も「他者と向き合う」シリーズです。

「人間」のアイデア、「人間」そのものに触れる瞬間は現実の人間においても、小説を通して起こりうるものだと思いますが、滅多に起こるものではないことを理解しておくことが重要だと思います。というのも我々はつねに相手を「人間」としてではなく、自分にとってどういう存在であるかという関心のもとで見ているからです。その根本には自己存在への関心があります。それは人間が自己存在に不安を抱えているからです。この不安を抱えているが故に、あらゆる「人間」関係が自分にとってのもの、自己中心的なものとなり、「人間」と「人間」の関係にならない。友情も自分のための友情となり、思いやりも自分のための思いやりとなり、感謝も自分のための感謝となり、ごめんなさいも自分のためのものとなる。要するに「他者に向き合う」ことができない。こうした点に向き合うことがなければあらゆる人間関係も、「他者に向き合う」ということもきれいな事になり、深まることはありません。

今日はここまでです。本日もよろしく願いいたします。